

北口選手が女子やり投げで金メダルの快挙

陸上世界選手権

陸上の世界選手権は、8月19日から27日までハンガリーのブダペストで開催され、女子やり投げで前回銅メダルの北口選手が金メダルを獲得した。五輪を含めて、日本の女子がトラック・フィールド種目での優勝と世界選手権での2大会連続の表彰台を達成したのは、いずれも初めての快挙。

決勝の1投目で右脚がつった北口選手は3投目の63メートル00から記録を伸ばせず、5投目までメダル圏外の4位。しかし、最後の6投目でこん身の力を振り絞り、自身2番目の記録となる66メートル73を投げ、



女子やり投げ決勝、北口選手の6回目の投てき

会心の逆転劇を演じた。北口選手は「自分が世界で一番になれる」と信じて、やり投げを選んで競技してきた。つらいことはたくさんあるが、きょうだけは世界で一番幸せ」と喜びを表した。

日本勢はこの大会で、過去最多となる11の入賞（8位以内）を果たし、競技力が世界に近づいていることを示した。競歩の男子35キロでは、川野将虎選手が銅メダルを獲得。110メートル障害の泉谷駿介選手は5位、3000メートル障害の三浦龍司選手は6位で、それぞれの種目で日本勢初の入賞を遂げた。100メートルのサニブラウン・ハキーム選手は6位で2大会連続の入賞となった。

田中希実選手は女子5000メートル予選で日本記録を15秒近く塗り替える14分37秒98をマークし、決勝では8位に入った。



日本-スウェーデン、後半、ゴールを決める林穂之香選手(手前右)



日本-ノルウェー、ゴールを決める宮沢選手(手前右)

なでしこジャパン4強入りならず
スペインが初優勝 サッカー女子W杯

オーストラリアとニュージーランドで行われたサッカー女子ワールドカップ（W杯）で、日本（なでしこジャパン）は8月11日、準々決勝でスウェーデンに1-2で惜しくも敗れ、準優勝した2015年大会以来のベスト4入りを逃した。決勝は、スペインがイングランドを1-0で下して初優勝。スペインは男子も10年南アフリカ大会を制しており、ドイツに続いて2例目の男女のW杯を制したチームとなった。得点王は5ゴールの宮沢ひなた選手で、日本選手では11年ドイツ大会の澤穂希さん以来2人目。

なでしこは準々決勝でスウェーデンに2点をリードされ、試合終盤に1点を返したが、追いつけなかった。なでしこはスペインに4-0で快勝するなど、3戦全勝で1次リーグを1位通過。決勝トーナメント1回戦ではノルウェーに3-1で快勝し、初優勝した11年以來3大会ぶりの優勝へ期待が高まったが、一発勝負により涙をのんだ。

池田太監督は「後半はしっかりと戦う姿勢を見せて（1点を）返してくれた。最後まであきらめずに戦ってくれたことを誇りに思う」と選手たちをたたえた。

日本がパリ五輪出場権獲得

バスケットW杯

フィンランドに歴史的初勝利



カポベルデに勝利し、パリ五輪出場を決めた日本チーム

バスケットボール男子のワールドカップ（W杯）は8月25日に沖縄アリーナなどで開幕。日本は、27日の1次リーグ第2戦で格上のフィンランドに逆転勝ちし、W杯で欧州勢から初めての勝利を挙げた。続く順位決定リーグでも、ベネズエラとカポベルデに連勝。通算3勝2敗でアジア勢の1位となり、来年のパリ五輪出場権を獲得した。

2年前の東京五輪は開催国枠での出場だったため、自力での出場は1976年モントリオール五輪以来48年ぶりとなる。

このフィンランド戦での勝利がチームに勢いをつけ、W杯で初めて3勝する原動力に。日本のトム・ホーバス監督は「若い選手が成長したことがうれしい。パリ五輪が本当に楽しみ。ドイツとオーストラリアには負けたが、後半（のスコア）は勝っていた。私たちはできるということを世界に示した。これは大きな一歩だ」と喜びを満面に表した。



日本-フィンランド、第4クォーター、3点シュートを決める河村選手(奥)



1回表、慶応・丸田選手(左から2人目)が先頭打者本塁打を放つ



仙台育英を破り、喜び慶応ナイン

慶応が107年ぶり2度目の優勝

仙台育英は連覇ならず 高校野球

第105回全国高校野球選手権大会は8月23日、兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で決勝が行われ、慶応（神奈川）が昨年優勝の仙台育英（宮城）に8-2で快勝し、1916年以來となる107年ぶり2度目の優勝を遂げた。

103年ぶりに決勝へ進んだ慶応は、慶応普通部として出場した第2回大会以來の頂点。神奈川県勢の優勝は、2015年の東海大相模以來8年ぶり。昨年の大会で、東北勢として春の選抜大会を含めて初めて優勝した仙台育英は、史上7校目の連覇を逃した。湧き起こる大声援にも後押しされ、今春の選抜大会で敗れた雪辱も果たした。

慶応はチームとして掲げる「エンジョイ・ベースボール」を最後まで貫き、試合中も笑顔が絶やさなかった。丸刈りのチームが多い中、風になびくような選手の髪形も話題となった。森林貴彦監督は「みんなが（高校野球の）常識だと思っていることが本場にそうなのか、と絶えず疑いたいし、伝えていくことも勇気を持ってしていきたい。うちが活躍することによって、多様な個性が認められるようになればいいと思う」と話した。